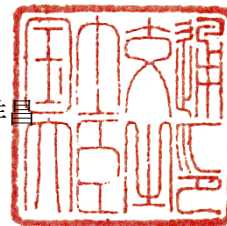


認 定 書

国 住 参 建 第 930 号
令和 7 年 7 月 28 日

J F E 建材株式会社
代表取締役社長 橋本 直政 様

国土交通大臣 中野 洋昌



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：各 1 時間）の規定に適合するものであることを認める。

記

- 認定番号
FP060FL-0261-1
- 認定をした構造方法等の名称
普通コンクリート・デッキプレート造床(合成スラブ)
- 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別 添)

1. 構造名

普通コンクリート・デッキプレート造床(合成スラブ)

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
床 厚	80 以上
荷重と支持間隔の 関係	・ 支持間隔 2,200 以下の場合 自重を含めた全荷重 12.81kN/m^2 以下 ・ 支持間隔 2,200～2,700 の場合 自重を含めた全荷重(w)×支持間隔(L)の2乗＝ 62.01kN 以下 (一般的な支持間隔と荷重を表-1 に示す。)
支 持	単純支持、連続支持

注) 全荷重＝固定荷重＋積載荷重

3. 構成材料

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
1 デッキプレート	・ 規 格 JIS G 3352(デッキプレート) ・ 厚 さ 1.0、1.2、1.6 ・ 山 高 さ $50_{\pm 1.5}$ ・ 働 き 幅 300_{-2+8} 、 600_{-2+8} ・ 形状寸法 別添-5 参照 ・ 種 類 (1)～(5)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする (1)SDP1T(厚さ 1.2、1.6 に限る) (2)SDP1TG(厚さ 1.2、1.6 に限る) (3)SDP2 (4)SDP2G (5)SDP3
2 コンクリート	・ 種 類 普通コンクリート ・ 呼び強度 21～45 ・ 厚 さ デッキプレート山上から 80 以上

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
3 ひび割れ拡大 防止用鉄筋	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする (1)溶接金網 ・規 格 JIS G 3551 ・種 類 (イ)～(チ)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする (イ)WFP (ロ)WFC (ハ)WFR (ニ)WFI (ホ)WFP-D (ヘ)WFC-D (ト)WFR-D (チ)WFI-D ・線 径 6 以上 ・間 隔 150 以下×150 以下 ・かぶり厚さ 床上面から 30 コンクリート外端側面から 20 (2)鉄筋(異形鉄筋) ・規 格 JIS G 3112 又は JIS G 3117 ・断 面 寸 法 D10 以上 ・間 隔 200 以下×200 以下 ・かぶり厚さ 床上面から 30

2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	仕 様
①スペーサー	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする (1)鉄材 ・線径、板厚 規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径、板厚以上 ・間 隔 1000 以下 (2)セメントブロック ・寸 法 規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 ・間 隔 1000 以下
②梁と床版の 接合方法	デッキプレート溝方向と直交する梁 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様、又は、組合せとする (1)焼抜き栓溶接 ・直 径 18 以上 ・間 隔 300 以下 (2)頭付きスタッド ・規 格 JIS B 1198 ・寸 法 $\phi 13$ 以上$\times\phi 80$ 以上 ・間 隔 900 以下

表-1 一般的な支持間隔と荷重

支持間隔 (mm)	自重を含めた全荷重 (kN/m ²)
2200 以下	12.81 以下
2300	11.72 以下
2400	10.76 以下
2500	9.92 以下
2600	9.17 以下
2700	8.50 以下

注) 支持間隔が表の中間の値の場合は $wL^2=62.01\text{kN}$ 以下であることを
確認すること

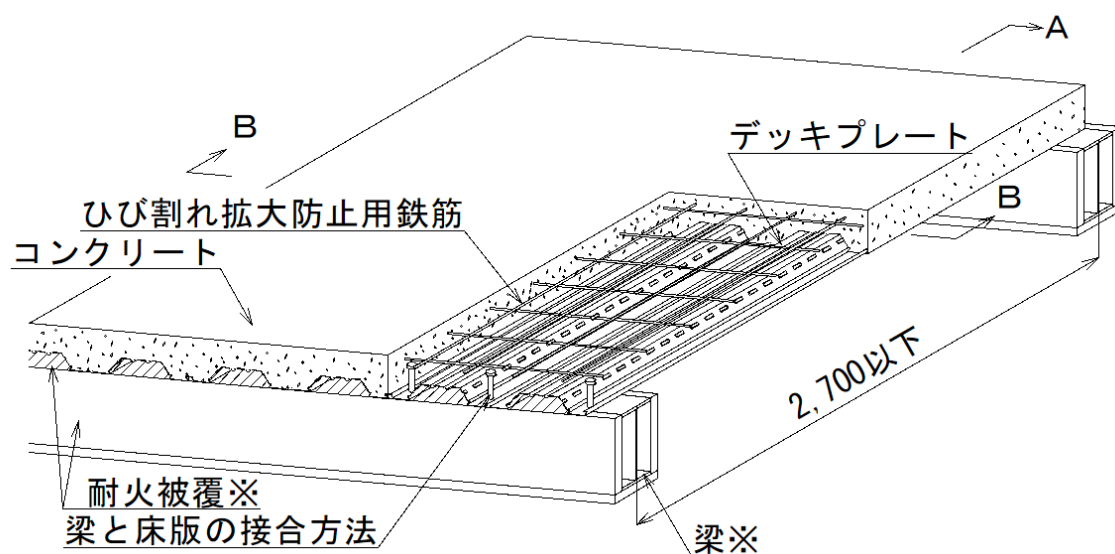
w : 自重を含めた全荷重 (kN/m²)

L : 支持間隔 (m)

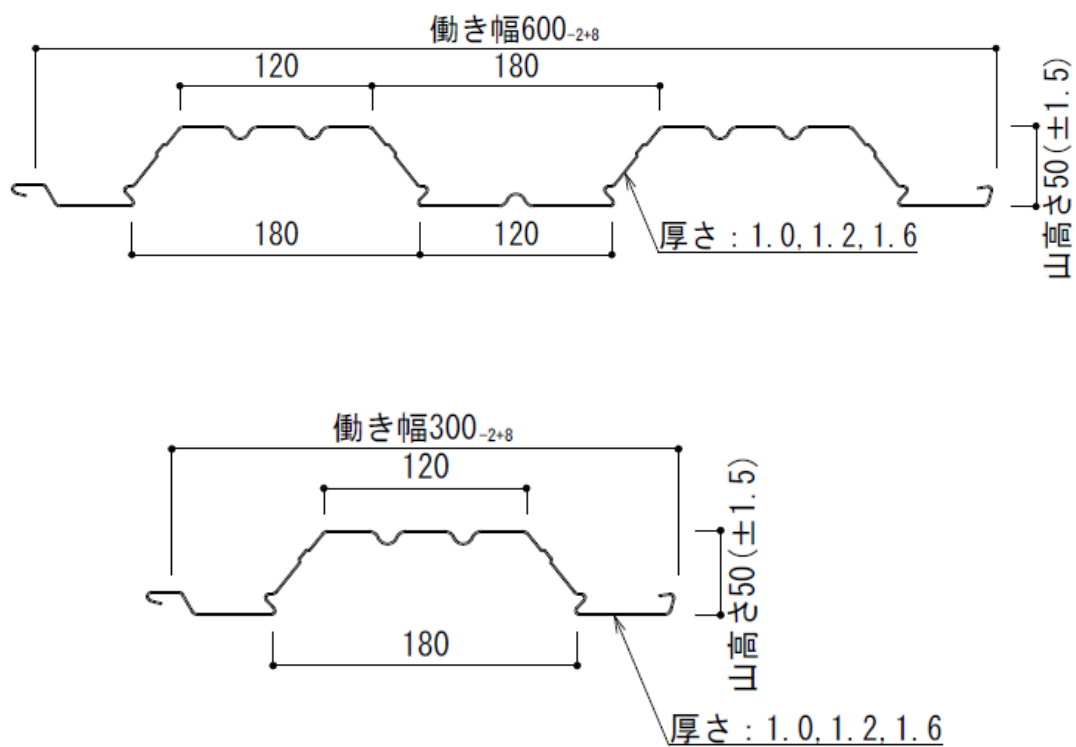
4. 構造説明図

[透視図]

(寸法単位：mm)



[デッキプレートの形状・寸法]

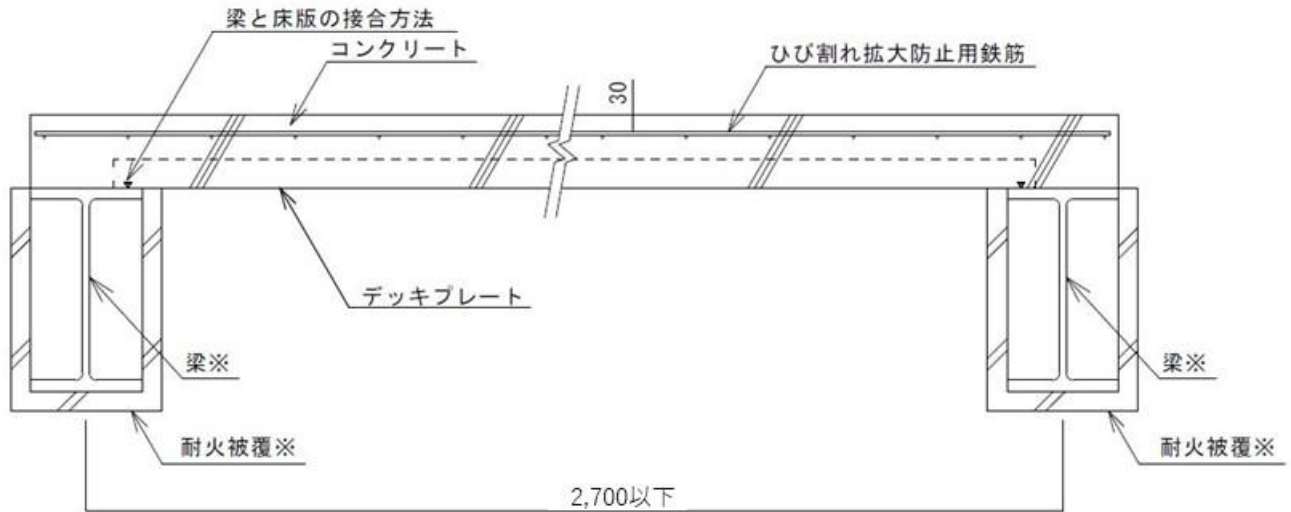


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

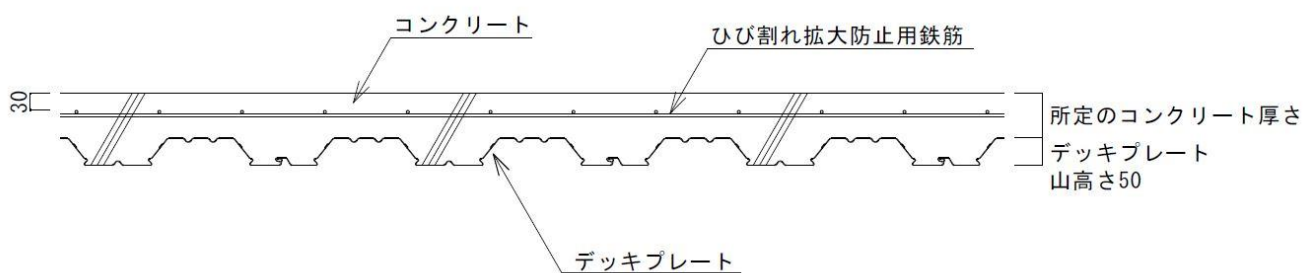
※：本評価内容に含まない

[断面図]

(寸法単位：mm)



A-A 断面図



B-B 断面图

注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※：本評価内容に含まない

5. 施工方法等

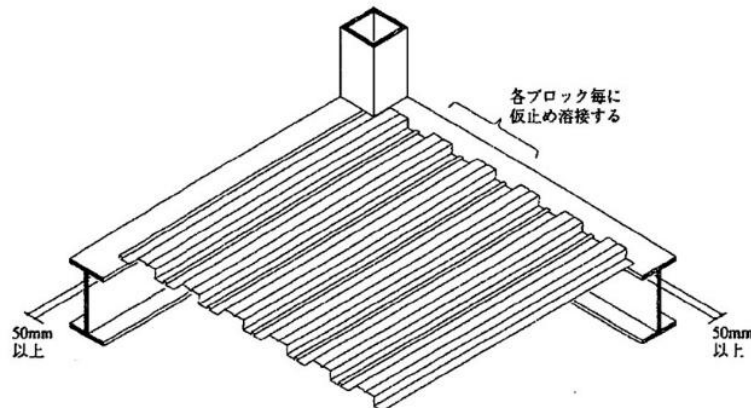
<施工図>

4. 構造説明図と同じ

<施工手順>

1) デッキプレートの敷込み

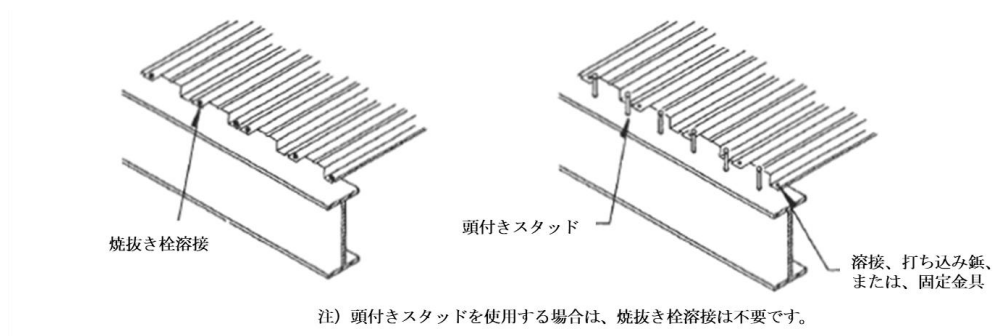
支持梁の墨出し線に合わせて1枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数間隔(5～10枚)毎に仮止め溶接する。デッキプレートの敷込みは、「デッキプレート床構造設計・施工規準 2018」(日本鋼構造協会)による。



2) 合成スラブと梁との接合

合成スラブと鉄骨梁とは、焼抜き栓溶接または頭付きスタッドで結合する。

デッキプレートと鉄骨梁とは、焼抜き栓溶接で接合するか、または頭付きスタッドを用いる場合は頭付きスタッドの施工前に、溶接(アークスポット溶接、すみ肉溶接、焼抜き栓溶接、プラグ溶接等)、打込み鋲(火薬式、ガス式、エア式等)、または、固定金具で接合する。



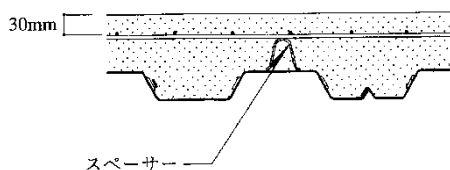
3) デッキプレート相互の接合

デッキプレート相互の接合は、嵌合・溶接・ビス等により構造上・耐火上有効に行う。

4) ひび割れ拡大防止用鉄筋の設置

溶接金網はスラブ上面より 30mm のかぶり厚さを確保して、梁上を含め床全面に敷き並べる。異形鉄線溶接金網を用いる場合の継ぎ手は、延長筋型重ね継ぎ手とすることができる。延長筋型重ね継ぎ手の継ぎ手方法は、GBRC 性能証明第 01-08 号改 4、または、GBRC 性能証明第 07-16 号改 2 による。スペーサーは 1.0m 以下のピッチで用いる。異形鉄筋を用いる場合は D10 以上をタテ、ヨコ間隔 200mm 以下で、スラブ上面より 30mm のかぶり厚を確保して、梁上を含め床全面に敷き並べる。

配筋の詳細は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて、特記（例えば、構造評定や性能証明を取得した工法の GBRC 性能証明第 01-08 号改 4、または、GBRC 性能証明第 07-16 号改 2）によるか、または、JASS5 の記載例による。



5) コンクリート打設

溶接金網または異形鉄筋が移動しないように注意しながら、コンクリートを不陸なく打ち込む。コンクリートの施工については「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて行い、床スラブの厚さの許容差は-5mm、+20mm とする。

6) 仕上げ

原則としてコンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

7) 養生

コンクリート打込み後の養生は「JASS5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて行うが、初期には湿潤養生を行い、十分な養生期間をとるよう留意する。

8) 梁の耐火被覆

梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて梁が露出しないように適切な耐火被覆を施す。